#ユースサポート

16,17,18 *** 第3号



2021年 2月 9日 特定非営利活動法人 ハイティーンズ サポート ちば 発行責任者 吉永 馨 http:// hs-chiba.net/

2021年も高校生の食支援にとりくみます!

NPO法人ハイティーンズサポートちばの初のとりくみとして実施した高校生へのお米配布会。3校合わせて150名近くの高校生に配ることができました。千葉工業高校では12月16日(水)二度目の配布会を行い、120名以上の生徒に配ることができました。地域の子ども食堂、若者支援団体、市民、大学生の皆さん・・・回を追うごとに多くの方々が準備作業に駆けつけてくださいました。あらためて地域の力、協働の大切さを学ぶことができました。このとりくみを多くの高校や地域に広げていきたいと思います。

1月14日 県立市川工業高校で「お米配布会」開催

新年第1回目のお米配布会が県立市川工業高校で行われました。今回もフードバンクちばさんからお米(玄米)540キロを分けていただき、生徒約230名分のお米を用意しました。

全日制生徒への配布は 15 時 30 分から。190 名 もの生徒が食堂を訪れ、お米やレトルトカレー、 カブやニンジンを嬉しそうに持ち帰っていきまし た。当日はアンケートも実施。新型コロナウイル スの影響について尋ねたところ、「親の職場が閉 鎖された」、「親の収入が減った」とあり、中には



「収入が減り進路が変わる」、「内定はとったが不安」という記述もあり、深刻な実態が現れていました。



定時制の配布は17時から。集まったのは25名。スタッフの温かい声掛けに対話もはずみます。アルバイトへの影響を尋ねると、「1日8時間から4時間に減らされてしまった」と憤る。アンケートの「1日何食?」の質問では、1日2食と1日1食合わせて6割を超えました。せめて夜に給食があれば・・・。あらためて高校生の食の問題を思い知らされました。

←配布前日は大忙し。午前 中は玄米の運搬と精米、午 後はお米の小分け作業。松 戸、市川の支援団体の方々が 参加してくださいました。



レトルトカレーはパルシステムちばさんから、カブとニンジンは近隣の生産者から提供していただきました。

「先生お腹空いたよ!|

- 市川工業高校への米配布にいたるまで -

市川工業高校定時制 長永 孝弘



1月14日、市川工業高校ではお米の配布会を実施することができました。全日制・定時制合わせて200名を越える生徒さんがお米などの食料を取りに来ました。「おなか一杯食べてね」と声掛けをすると、満面の笑みで「ありがたく頂きます」と言って食堂を後にする生徒さん。「申し込んでいないのですが、もらってもいいですか」 申し訳なさそうにやってくる生徒さん。「余分にお米があるから心配しないで持っていきな!」なんてやり取りが見られました。「食」を通じて人と人が繋がる温かい場面です。米配布のお願いから僅かな時間で、このような場を設定していただいた管理職の先生方、そして、お手伝いなどご協力いただいたハイティーンズサポートちばの皆さんや地域の方々には大変感謝しております。

さて、私は、今年度から市川工業高校定時制に異動しました。そこで一番気がかりだったことは生徒さんの「食」に関することでした。定時制では給食がなくなって久しいと聞いていたからです。

とある日、それが現実のものになりました。あるクラスの授業で私の顔を見るやいなや「先生、お腹減ったよ」との第一声。その生徒さんは、昼間のアルバイトを終え、食事を一口も摂ることなく登校していました。それ以来、その生徒さんと交わす挨拶は「飯食ったか」になりました。色々話を聞いていくと、食事代として余りお金を使えない月も多々あるということでした。また、かつて給食があった頃は何杯もお替りをしていたということを懐かしく語ってくれました。

生徒さんにと って給食が1 日の支えであ ったことは明 らかです。

そして、私



給食の風景(2017年5月)

自身何ができるのか考えた末、知り合いで子ども食堂を主宰している方に相談しました。すると、10月下旬に子ども食堂でお弁当を配布するとの事。そこで一部を高校生に分けて頂けることになりました。これをきっかけに、昨年の11月からの3カ月間、生徒さんへの食事支援や食料配布に精力的に関わって頂くことになりました。また、その方が地域の若者をサポートする団体に相談を持ち掛けて下さり、別な形で月2回のおにぎりと食材配布も行うことになりました。こうして地域の方々との連携で、生徒さんへの「食」に関わるプロジェクトが動き出しました。

私は、細々と授業を通じて生徒さんに声掛けしてい きました。教室で配布の声掛けをした時、「食事支援 や食材配布は、いつがいいですか」と尋ねると、「20 日よりも後の日にしてもらえると助かります | という 声に生徒さんの抱えている背景も少しずつ見えてき ます。何度か支援を重ねていくと、ある生徒さんは「先 生、どうして利益にもならないのに俺たちに食べるも の出してくれるの。売ればいいのに。」と訝しげな質 問を投げかけて来ます。私は、共助の大切さを実感し て欲しいと思い、「みんながお腹いっぱい食べて、社 会に巣立っていくことを願っている人が少なからず いるから、こうした支援が行われているんだよ」と伝 えました。食事支援や食料配布のあった日の授業では、 いつもより和んだ雰囲気が教室に満たされます。この ように僅かな時間で地域の方々と共に生徒に繋がる ことができたのも、高校生を思い俊敏に動いて頂いた 地域の方のお蔭です。

このような一連の流れを背景に 1・14 お米配布会を迎えました。最後に地域の方々との繋がりを生かし、学校の場に「居場所カフェ」をつくり、共により多くの生徒さんと繋がっていけたらと思います。

「すべては、生徒さん一人ひとりの笑顔のために!|

12/19(土) シンポジウム「高校生サポートの現場から」開催

横浜総合高校「ようこそカフェ」その秘訣は?



講師の尾崎万里奈さん



開設の仕方、運営の仕方、高校との連携・・・そして隠し味は?

12月9日(土)、千葉市生涯学習センター小ホールにおいて、NPO法人ハイティーンズサポートちばシンポジウムを開催しました。2月の設立総会記念講演に続き、高校居場所カフェの実践についてお話をうかがうことができました。基調講演は「よこはまユース」の尾崎万里奈さん。横浜市立横浜総合高校の「ようこそカフェ」の開設に至る経過から運営の仕方までお話いただきました。高校との連携、支援団体の連携、地域の支援者の参加の仕方等大きな課題がありますが、これから千葉でとりくんでいく上での「コツ」を教えていただきました。

後半は、10月以降県立高校3校で取り組んだ「お米配布会」の報告がありました。高校生の生活実態を知ることができたこと、また地域の支援団体はじめ多くの市民の参加が大きな力になったことが挙げられました。地域の方々との協働の大切さを身をもって知ることができました。

交流相談カフェ「ようこそカフェ」の実践

理事 宮内 渉

今回の講演では、公益財団法人「よこはまユース」の 尾崎万里奈さんをお迎えして、1時間、交流相談カフェ 「ようこそカフェ」についてお話していただきました。

「ようこそカフェ」は横浜市立横浜総合高校で 2016 年 10 月にオープンした"交流相談カフェ"です。毎週水曜日、昼の 12 時から夕方 17 時半まで 1 階フリースペースで、青少年育成や若者支援団体のスタッフが中心となって、大学生・社会人のボランティアと共に運営しています。毎回約 200 人の生徒が利用しています。

横浜総合高校は 2002 年に開校した 3 部制の定時制、総合学科の高校で、1000 名を超える生徒が在籍しています。実際にオープンするまでの約半年間、高校と運営団体間で何度も打ち合わせを行い、教職員会議での説明や生徒向けワークショップの実施、終業式での全校向け周知などを実施しました。フリースペースは校舎の正面玄関と教室を結ぶ廊下の途中にあり、生徒が寄りやすい位置にあるということもありますが、のんびり終始居つく生徒や立ち食いそば屋のようにさっとドリンクとお菓子をほおばり教室に走り去っていく生徒など自由に出入りしやすい場所です。「カフェで話ができて発散になる」「実家よりも安心する」「考え方が違う人に出会えた」など生徒の居場所としての機能は充分です。

毎回のカフェ終了後には、スタッフで振り返りのミーティングを行い、当日気になったことや生徒の様子をスタッフ間で共有して、特に気になる生徒は担当の先生とも共有する。「とにかく話を聞いてほしい子がたくさんいる」という感想にはスタッフ全員が頷いていました。



カフェには地域の大人たちがさまざまな形で参加していますが、中でも料理研究家で横浜市の教育委員も務めた長島由佳さんが、献立や調理を仕切り、麻婆丼など本格料理をふるまいます。「水曜ママ」と生徒から呼ばれています。地域の支援団体・生協・企業などが参加する中で、生徒たちは大人の世界を知り、「世の中捨てたもんじゃない」と自分の将来に可能性を感じます。また関わる大人同士も横のつながりが生まれ、地域のコミュニティの大きな力につながります。

新聞に紹介されました

ふなばし読売新聞(2021.1.23)

ご案内

船橋よみうり ル教員や現役教員で 制のある県立高校 学校という生 「収入減」「進路変更 寄付を受けたコメ2 1 高校生から切実な声 。食堂 全日 き、その内容を足がかり 制・定時制の生徒215 人に手渡した。 「アルバイト減ってる 。飲食? 食べ盛りの家族 収入が減り コメを受け取る生徒たち。「あり がとうございましたっ」といっ た元気な声が食堂に響く 問には、コメを受け取っていますか」といった質 体では、 さんは一 吉永さんは「まだ初 だいたい何食 日常的な買い物をす 回数を重ねて関係を 冷やかしで来る 困ってい 食事 食べ で連絡を一。配布の を削る生徒もいる。学び 移動スーパーは に体が慣れたと

パルシステム千葉コミュニティ活動助成基金 2020 年度助成事業

NPO ハイティーンズサポートちばシンポジウム コロー2回の芝老++ポート

今、コロナによってハイティーンの子どもたちの生族にも大きな影響が出ています。 「機の収入が減ってしまった。」「アルバイトのシフトが散滅でつらい。」生活や得来への不安の声が関かれます。 相談支援団体やスクールソーシャルワーカーから議跡をお迎えし、支援の現状をお聞きしていきます。



2/13(土) 13:30~16:30

千葉市生涯学習センターBIF小ホール *ZOOM 配信準備中

◆基調講演

「コロナ禍、若者の苦悩と向き合う」 講師 朝比奈 ミカさん (中核地域支援センターがじゅまる代表)

◆実践報告

スクールソーシャルワーカーの活動から

*無料・要申し込み 2/10(水)まで 申し込みフォーム→





お問い合わせ: NPO ハイティーンズサポートちば 090-3525-2055 (吉永)



困ったことがあったら すぐご相談ください!

当会の LINE 公式アカウン ト名は**「hsちば」**です。

会員募集→ 詳細は HP にて



公式 LINE→ をだち追加



リレー

魔界から抜け出る道



コロナ禍が騒がれるようになった辺り から、その子は休憩室によく来るように なった。驚くほど礼儀正しい生徒だ。し

かし彼女の存在を際立たせているものは別にあった。話し始める時決まって同じトーンで同じ言葉を言う。「ねえせんせ?」だ。「せん」の部分だけイントネーションが下がり、最後の「せ」はわずかだが語尾が上がる。どこかで聞いたことがあると思っていたが、思い出した。ムーミンの歌だ。「ねえムーミン?」と呼びかけるところと酷似している(この例えはおそら〈50歳以上にしか通じない)。そして同時にこれは次に続〈怒濤の連続質問の始まりの合図なのだ。例えば「なぜここに世界地図が貼ってあるんですか?」「世界を意識すると悩みがちっぽけに感じるからかなあ」「じゃあこの世界地図の色はどうやって塗り分けているんですか?」。このやりとりが30秒に1回の割合で続〈。たまに文書の提出締め切りが迫っていて「この質

石橋 正治(理事)

問、このままずっと続くのかなあ」と正直思うことがある。だがこういう時に限って無制限一本勝負の様相を呈す。「もしこの学校が魔界に入ってしまったらどうなりますか?」。どうなりますかって、残念だが自分の知識を総動員しても、この質問は手に負えない。今度陰陽師でも見てみようと思う。

彼女が帰ったある日、この生徒の家庭環境を調べてみた。ある部分に目がとまった。住所が、自宅ではなかった。少しずつ、いろいろなことが頭の中でつながっていった。「ねえせんせ?」は、本当に呼びかけたいのは「せんせ」じゃないね。礼儀正しさの向こう側に、誰にも心配かけまいと毎日必死に戦っている彼女の姿が浮かぶ。書類の締め切りと天秤にかけた自分が恥ずかしい。今度は魔界が来ようが鬼滅が来ようが、何をおいても最優先で答えるから。そう心に誓った。